

場面の組み立てを考えて読み、世界の民話をしようかしよう

中心学習材 「三年とうげ」（光村図書三年下）

補助学習材 「螢」（『アジア心の民話シリーズ オリーブかあさんのフィリピン民話』より 星の環会）
 「トッケビのはなし」（『日本・中国・韓国の昔話集』より 日中韓子ども童話交流事業実行委員会編）
 「大きなかぶ」（光村図書一年上）

＜育てたい主となる能力＞

◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。（読む）

＜単元を貫く言語活動＞

◎世界の民話を紹介する。

1 子どもと単元について

子どもたちは、三年生の「読むこと」の学習「登場人物と自分を比べて読み、キャラクターの紹介をしよう（中心学習材：海をかつとばせ）」で、自分と同年代の主人公が登場する物語をたくさん読み、その人物像をとらえたり、自分と比べて「似ているところ」や「違ってるところ」はどんなところかを見付けたりする学習を行った。また「物語を読んで感想をまとめよう（中心学習材：ちいちゃんのかげおくり）」の学習では、場面の移り変わりに注意しながら、主人公「ちいちゃん」の気持ちの変化を考え、一番心を打たれた場面を中心にした感想文を書き、交流する学習を行ってきた。これらの学習を通して「場面の移り変わりを読む」技能を身に付けるとともに、行動に関する叙述や会話文、情景描写などを基に登場人物の気持ちや性格を想像する力を高めてきた。また感想の交流を通して、一人一人の感じ方には違いがあることに気付くことができるようになってきている。語彙の拡充という点においては、人物の性格を表す語彙が増えている。

中心学習材「三年とうげ」は、「三年とうげで転んでしまうと三年しか生きられない」という言い伝えに、すっかり心身を病んでしまった一人のおじいさんが、水車屋のトルトリの知恵によって元気を取り戻すという、朝鮮半島に伝わる民話の一つである。起承転結がはっきりとしており、特にもトルトリの名案が光る「転」の場面が児童にも分かりやすい話になっている。場面の組立て（起承転結）を考えつつ「登場人物が知恵を働かせて問題を解決する」という、民話や昔話（以降昔話も「民話」に含める）の魅力を感じることでできる学習材である。

指導に当たっては、次の三点を大切にす。一点目は民話の内容的な魅力を、起承転結の「転」（「解決へ向けて解決方法が示され事件や問題が動いていく」や「人物の心情に大きな変化が見られたりする」など）や「結」（事件や問題が解決し、その後どうなったか）の場面に着目させてとらえさせることである。民話の魅力は内容面だけでなく、読んだ時のリズムや同じフレーズの繰り返しなどの表現面にもあるが、本単元では場面の組立て（起承転結）を意識させるために、話の面白さの中心となっている「転」の場面を意識して読ませるようにする。特にも、「転」の押さえは、物語の学習のクライマックスのとらえにも通じるものであり、今後、児童が読書を楽しむ際の一つの方法として活用していく力となる。尚、民話の中には起承転結が押さえにくいものもあるので、そのような場合には、必ずしも「起」から「承」へと場面展開の順序通りということではなく、場合によっては「起」と「結」を押さえてから、「承」と「転」を探するなど、柔軟に考えるようにさせたい。二点目は中心学習材を学習した後、補助学習材との比べ読みを取り入れることである。本単元ではこの比べ読みに三つの意味をもたせる。①「民話の『転』の面白さをより明確にすること」②「『三年とうげ』と同様に『転』が一つの話、『承』と『転』が二つの話、『転』の部分が何度も繰り返される話の三つのパターンの民話を取り上げ、以後の並行読書で話の魅力がどのパターンで表現されているのか考えながら読ませる視点を持たせること」③「起承転結を押さえる技能を、より確かなものにする」ことである。並行読書する民話には「三年とうげ」よりも長編の民話も多くあり、三年生段階として中心学習材で学んだ力をすぐに自分の選んだ本で生かすことが難しい。そこで三編の民話の比べ読みを取り入れることで、組立てを押さえる力の定着を図るようにしたい。三点目は「何らかの知恵によって問題が解決される」「善人は恩恵を受け悪人は懲らしめられる」などに見られる民話の魅力や、学習材や並行読書を通してたくさん感じ取らせることである。単元の最後に、それぞれが作った「民話の家」（家の四つの壁面で、話の起承転結をまとめたもの）を、「民話の里」（民話の家を集めたもの）という形でまとめ、それを基に“世界の民話ブックトーク”を学級で行う。この活動によって、本単元の学習以降も「もっと他の民話も読んでみたい」という気持ちをもたせ、多読へとつなげたい。

2 単元の指導目標

- 世界の民話に興味をもち、進んで読もうとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎場面の移り変わりを考えながら、世界の民話を読むことができる。 【読むこと ウ】
- 世界各地に伝わる民話をたくさん読むことができる。 【読むこと カ】
- 語句には性質や役割の上で類別があることを理解し、自分の作品に生かすことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ（オ）】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○起承転結の組立てを考えながら、民話を進んで読もうとしている。	◎場面の組立て（起承転結）を押さえ、「転」の場面を見付けながら民話を読んでいる。 ○どの国や地域に伝わるものか意識しながら、たくさんの民話を読んでいる。	○民話の場面転換に用いられる特徴的な語句に気付き、自分が起承転結の場面に分ける時の根拠にしている。

4 学習指導計画（全9時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

第1次
単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。
(2時間)

- ① 知っている日本や世界の民話を出し合い、単元の学習の見通しをもつ。
 - ② 並行読書の方法を知り、多読への意欲をもつ。
- <評価>
- ① 読書材を世界の民話に広げ、「民話の家」を使ったブックトークモデルを見ることで、楽しく紹介しようという見通しをもっている。《話し合い・学習感想》
 - ② 多読への意欲をもっている。《発言・学習感想》

第2次
「三年とうげ」や他の民話を読んで場面の組立て（起承転結）を押さえ、話の魅力がどの部分にあるか考える。
(4時間)

並行読書

- ③ 中心学習材「三年とうげ」を読み、あらすじと場面の組立て（起承転結）を押さえる。
 - ④ 「三年とうげ」の「転」の場面に着目し、この話の面白さの理由を考える。
 - ⑤ 「螢」「トッケビのはなし」「おおきなかぶ」を、「三年とうげ」と比べて読み、似ている所や違っている所を見付ける。
 - ⑥ 三つの民話の中から好きな話を選んで起承転結の場面に分け、「転」を中心に話の面白さを書く。
- <評価>
- ③ 「どこで」「どんな出来事が起きて」「その出来事が何によってどう解決し」「最後はどうなったか」の四点（起承転結）を押さえている。《ワークシート》
 - ④ 「三年とうげ」は特に「転」で示される知恵が話の面白さにつながっていることに気付いている。《話し合い・ワークシート》
 - ⑤ 民話には「三年とうげ」と同じように「転」が一つの話だけではなく、勧善懲悪型の話によく見られる「承」→「転」が二箇所あるものや、「転」が繰り返されるものがあることに気付いている。《話し合い・ワークシート》
 - ⑥ 三つの民話から好きな話を選んで起承転結でまとめ、これまでに学んだ「転」を押さえる技能を生かして、話の面白さを書いている。《ワークシート》

中心学習材で学んだ、起承転結の組立てや、特に「転」を押さえる技能を生かして、中心学習材と補助学習材とを比べて読む。

第3次
自分が選んだお気に入りの民話で「民話の家」を作り、「世界の民話ブックトーク」を行う。
(3時間)

- ⑦ 並行読書した本の中からお気に入りの民話を選び、その民話と同じ国や地域の本を他にも探して読む。
 - ⑧ お気に入りの民話を起承転結でまとめ、「転」を中心に話の面白さを書く。
- (本時)
- ⑨ 「民話の里」を会場に、学級で「世界の民話ブックトーク」を行う。
- <評価>
- ⑦ ブックリストを読み返し、お気に入りの民話を選んでいる。《選書》
 - ⑧ お気に入りの民話を「民話の家」の壁面になる四面のワークシートに起承転結でまとめ、「転」を中心に話の面白さを書いている。《ワークシート・交流の様子》
 - ⑨ 「民話の家」を使って、お気に入りの民話を紹介している。《ブックトーク》

2次で学んだ起承転結の組立てを押さえたり、「転」の場面をとらえたりする技能を、お気に入りの民話を読み取る際に活用する。

【国語科活用場面】
○起承転結の組立てを意識し、自分で物語を書く。(次単元「物語を書こう」)
【他教科等・日常活用場面】
○話のもつ魅力を考えながら読む。(読書)

5 本時の指導

(1) ねらい

自分が選んだ民話を起承転結の場面ごとにワークシートにまとめ、「転」を中心にした話の面白さを「お気に入りポイント」として書く。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

前時までの学習では、中心学習材「三年とうげ」や補助学習材三編を用い、話を起承転結の場面に分けて読み取ったり、「転」を中心にした話の面白さを見つけたりする力を身に付けてきた。本時では、その知識・技能を生かし、自分が選んだ民話を起承転結の場面ごとにまとめ、あらずじと「転」を中心にした話の面白さを「お気に入りポイント」として書く。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>自分のお気に入りの民話を「起しょう転けつ」でまとめて「お気に入りポイント」を書き，“世界の民話ブックトーク”の準備をしよう。</p>		<p>○学習計画に沿って学習課題の確認を行い、単元における本時の位置付けを確かめる。</p>
<p>2 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 場面分けの観点を確認する。</p> <p>(2) 自分のお気に入りの民話を起承転結でまとめ、お気に入りポイントを書く。</p>	<p>○起承転結の場面分けの観点例</p> <p>①「起」(はじまり) →お話の「場」はどんなところですか。</p> <p>②「しょう」 →どんな事けんや問題が起きましたか。 →よい人はどうなりましたか。</p> <p>③「転」 →どんな方ほうで、かい決しようとなりましたか。 →悪い人はどうなりましたか。</p> <p>④「けつ」 →事けんや問題はどのようにかい決しましたか。 →さいごはどうなりましたか。</p> <p>○お気に入りポイント例 (話の内容に関するもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「転」の部分に出てくる知えや、登場人物の心情の大きな変化のおもしろさ ・「転」がくり返されることのおもしろさ ・二回ある「しょう」→「転」の中に出てくる「正ぎが勝ち、悪者がこらしめられる」おもしろさ 	<p>○これまで自分が並行読書してきた記録(ブックリスト)と自分の本(民話)を準備させておく。</p> <p>○観点については中心学習材や補助学習材で扱っているの、掲示で確認する程度とする。</p> <p>○起承転結のそれぞれの面が、組み立てると「民話の家」の四つの壁面になる様式の、ワークシートを用意する。</p> <p>○「転」の場面がとらえにくい話は、始めに「起」と「結」を押さえさせ、場面を絞ってから「転」の部分について考えさせるようにする。</p> <p>○「お気に入りポイント」は、そう感じた理由を明確にして書くようにさせる。</p> <p><評価>起承転結の場面分けの観点例を参考に各場面二文程度でまとめ、お気に入りの理由も合わせて民話を紹介することができる【ワークシート・紹介】</p> <p>○「民話の家」が早く完成した児童から、オープンスペースでペアを組み、お互いに民話の紹介をさせる。</p>
<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価をする。</p> <p>(2) 感想を交流し合う。</p> <p>4 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○以下の観点で評価すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のお気に入りの民話を、起承転結の四場面に分けることができたか。 ・お気に入りポイントを見付け、理由も合わせて発表できたか。 	<p>○本時は「民話の家」と記号評価で、ねらいの自己評価が出来るので記述による評価は行わない。感想や気付きは感想交流の中で出すようにする。</p> <p>○簡単な民話紹介をしての感想を発表し合い、次時への意欲をもたせるようにする。</p> <p>○次時は「民話の家」を使い、学級で“世界の民話ブックトーク”を行うことを確かめ、次時の学習の見通しをもたせる。</p>